

シャロンの花だより

23期 主題：新しい歌を 主に向かって歌おう

••• キリストの愛に結ばれて 協力しあい支えあう •••
 「いかに幸いなことか、主に信頼をおく人」詩編 40:5a

卷頭言

「新しい歌を 主に向かって歌おう」

千葉教会牧師：小泉 嗣



歌を歌うために必要なもの、それは耳に聞こえてくる、または頭の中に流れているリズムやメロディーにのって発せられる「声」です。そしてその声を発するために、私たちを「息」を吸いこまなければなりません。そう考えると、私たちは「声」と「息」によって歌を歌うことができるのだと言えるでしょう。

では「新しい歌」を歌うために必要なものは何でしょうか？「息」と「声」、それに新しいメロディーに新しい言葉、新しい楽器、新しい編成…？

「新しい歌を主に歌え」という命令は聖書の中に9回、そのうち6回を詩篇に見つけることができます。ではその歌を歌うために聖書は何が必要であると語っているのでしょうか？そのことを考えるために、私たちはまず、新しい歌がどのような歌であるのかを考えなければなりません。ある人は、この「新しい歌」を12の定義をもって説明しています。

- ・「新しい歌」とは、その時代時代に生まれて歌われた歌のこと。
- ・「新しい歌」とは、新作の歌ではなく、神への救いの驚き、感謝、感動を新たな思いで歌う歌のこと。

- ・「新しい歌」とは、その都度、その都度、神から与えられる歌のこと。
- ・「新しい歌」とは、主に贖われた者（救われた者）にしか歌えない歌（賛美）のこと。
- ・「新しい歌」とは、絶えず心をリニューアルされ、新しい気持ちで歌う歌のこと。
- ・「新しい歌」とは、新作、あるいは最近流行している歌ではない。
- ・「新しい歌」とは、人間がこれまで歌ってきた歌とはまったく質の異なる歌のこと。
- ・「新しい歌」とは、新しい心によって歌われる新しい心の歌のこと。
- ・「新しい歌」とは、待ちに待った救いが来たという歓喜の叫びと共に歌われる歌のこと。
- ・「新しい歌」とは、即興で与えられる自分しか歌えない新しい靈の歌のこと。
- ・「新しい歌」とは、終末論的な賛歌のこと。つまり救いの完成を見つめながら歌う歌のこと。
- ・「新しい歌」とは、救いの感謝と喜びの歌、愛の交わりの歌、信仰と希望の歌のこと。

では23期東教区女性会が主題として掲げた「新しい歌を主に向かって歌おう」という表題の詩篇40編4節の語る「新しい歌」は、上述した定義の何番目の歌にあたるのでしょうか？

詩篇は聖書の中でも独特な存在感を私たちに与えます。旧約聖書の中のほぼ真ん中に位置し、また多くの新約聖書にも、その巻末には創世記ではなく詩篇が付けられています。少し言い過ぎかもしませんが、詩篇はキリスト者の生活において新約聖書に次いで無くてはならないものであると考えられているのかもしれません。現にルターは、詩篇を「小聖書」と呼び「祈りをささげる者はすべて詩篇を用いるべきであり、それを暗唱するほど馴染まなければならない」と言っていますし、中世の修道院の会則にも「毎週 150 篇ある詩篇をすべて歌い、日曜日の前夜の礼拝ではまた新しく歌いはじめること。自ら誓約した礼拝において、詩篇全曲と慣習的に定められた賛歌を一週間で歌えないような修道士は怠慢だと見なされる。歴代の教皇たちは、この仕事を一日でこなしていたようだ。私たちはそれに比べるとだいぶ生ぬるいが、この仕事をせめて一週間でやり上げようではないか。」という言葉が残っているそうです。紀元 587 年に開かれた第二ニカイア公會議にいたっては、詩篇を 150 篇すべて暗唱しなければ司教に叙任されないことが規定されたそうです。なんとも厳しい会則であり、規定であり、もしこのような会則や規定が私たちのルーテル教会にも取り入れられていたとしたら、私はこうして牧師になつていなかつた、いやなれなかつたのではないかと想像します。

私たちキリスト教の歴史において、それほど重いといふか、貴重といふか、大切なものとして、守られ、読まれ、歌われてきた、それが詩篇なのです。言うなれば詩篇は、キリスト者の生活に、信仰生活に、教会生活になくてはならないものであった。いや、今もなおそうありつづけています。そんな書物であると言えるのです。

そして、そんな書物のたった一節「いかに幸いなことか、主に信頼をおく人」という詩篇 40 編 5 節が第 23 期東教区女性会の主題聖句となりました。しかしたった一節といえどもしかしそれは詩篇の一節。ということはキリスト者の祈りのひと言であり、キリスト者のうたの一節です。だからこそ私は、この一節をもって、この一節と共に、教区女性会の歩みが進んで行って欲しいと思うのです。

この詩篇 40 編は、詩篇の中でも少し珍しい詩であるといえます。それは 12 節と 13 節を境に詩の雰囲気が大きく異なるからです。みなさんも 40 編をすべてお読みいただければわかると思うのですが、12 節までの前半部分は救いの喜びが、苦しみの中であっても、しかし確かに声高く叫び祈る、そんな力強い言葉が語られます。しかし 13 節以下の後半はというと、苦しみや嘆きの中で救いを求める言葉が語られているのです。この詩篇は救われた喜びの次に嘆いているのです。嘆きの中から救われ喜び歌うのではなく、

その逆なのです。ハッピーエンドではないバッドエンドのような詩なのです。この詩篇 40 編を始めから終わりまで読み通しますと、そこには過去に経験した救いの出来事に「救いの確信」を得つつも、しかし今は嘆きの中にある、苦しみの中にある、痛みの中にある、そんな詩人の姿が浮かび上がるのです。

しかしこの詩篇は、決してバッドエンドな詩として結末を迎えている詩ではありません。過去の栄光や救いの体験にすがり、過去をのみ見つめ、今を苦しんでいる、昔を懐かしみ今を嘆く愚痴ではありません。そうではなく未だ結末を迎えていない、そこに向かう途上の詩なのです。そしてその結末は悪いものではないのです。「今現在、苦しみの中にあっても、今現在、悲しみや嘆きの中にあつたとしても、私は昔、確かに救いを見た、主の救いにあづかった、主は救ってくださる。結末に訪れる救いの確信をもって今の苦しみを私は生きよう」、そんな詩人の声が聞こえてくる詩なのです。

救いの体験のゆえに未来にもまた救いがあるという確信。そう、未来への希望が現在の悲しみや苦しみを克服する力となる。この詩篇 40 編は私たちに「救いの確信」を「確かな希望」を語りかけているのです。

新しい歌を歌うために何が必要か？今喜びの中にあつたとしても、逆に苦しみの中にあつたとしても、新しい歌を歌うために必要なもの、それはただ一つ、主に信頼を置くことです。楽器も歌詞もメロディーも無くても、ただ一点、主に信頼を置くことによってのみ、キリスト者はその信仰を日々新しくされ、新しい歌をその口に与えられるのです。日々の生活の中で、祈りの中で、礼拝の中で、私たちが新約聖書の傍らにある詩篇の一篇を思い、主に信頼を置くそのときに、そこに新しい歌が生まれるのです。私が考えだすのではない、私の口に主が新しい歌を与えてくださる。主に信頼を置くということは、そのような新しい歌が与えられるということであると、私は思うのです。

そして、主に信頼を置き、新しい歌を歌う私たちを、詩人は「幸い」であると言うのです。この 40 編 5 節の言葉は詩篇 1 篇 1 節にある言葉であり、またマタイによる福音書において山上に立つ主イエス・キリストが語られたその祝福の言葉であります。主に信頼を置き、新しい歌を歌う私たちを、主イエス・キリストは「幸いなるかな」と祝福を与え、その道を確かなものとし、その歩みを守り導いてくださるのです。

この主に信頼を置き、新しい歌を喜びを持って歌い続けてまいりましょう。

私たち 23期役員をよろしくお願ひいたします



(は)

(じ)

(め)

(ま)

(し)

(て)



保坂

紹

皿井

八木

岸田

根本

菱田

副会長**皿井 千穂子：松本**

信州松本産の役員です。いつも信濃路を自転車替わりの軽自動車で走りまわっています。役員になって初仕事は、電車の乗り継ぎでした。3年の任期の終わりにはスイスイと電車の乗り降りができるでしょうか。。

会長**八木 久美：むさしの**

わたしはあなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、将来と希望を与えるものである(エレミヤ29:11)。共に祈りつつ、歩んでいきたいと思います。心に太陽を、唇に歌を持ちながら♪

副会長**綱 春子：聖パウロ**

女性会の繋がりは信仰の励みとなります。諸処の事情から、城北・総武地区から役員となり、ご奉仕は3回目です。主がお入り用であれば精一杯仕えようと思います。「今」に相応しい女性会を皆様と共に創って行きましょう。

書記**菱田 典子：田園調布**

母の喜ぶ顔を見たさが第一の理由で高校生の時に受洗しました。その母教会に今は2時間近くかけて通っています。神様は私が何もできないことをご存知でしたが、「書記」の大役を担うようにと。苦しみの中にたくさんのお恵みが備えられていました。

会計**岸田 多希子：田園調布**

女性会のことなど何も知らないままスタート。いきなり総大会を迎えるまどうことばかりの中で、早くも沢山学び、素晴らしい方々と出会うことができました。これから3年間に大きな期待をしています。

連盟担当**根本 明子：大森**

教区役員がどんなものであるか、よく理解せずお引き受けしました。しかし、神様が導かれたもの。私自身、何ができるのか。力量不足は百も承知です。ただ、神様のみこころに沿うことが出来るよう、一步一步確実に歩むよう主に祈るばかりです。

文書**保坂 和子：東京**

何もわからないまま、東教区女性会の役員になり、何もできないのに文書担当になってしまいました。ただ今、パソコンの特訓中です。神様のお導きと、皆様のお力添えによってやり遂げることができますように。。

~4.11 第1回会長会・女性会の集い~

そうだ、『会長会も女性の集い』だった

東京教会*米澤 克子

「女性会会長」私にとって全く無縁なことと思っていたこの役に就いたのが2月の例会。自分の中で常に「しなければならない事」が頭の中でグルグルまわっているようなこの2ヶ月だった。

そして迎えた東教区女性会会长会。小雨降る中、田園調布教会へ。心の中は不安でいっぱい。道を間違えないように角ごとで確かめながら目的地へ。階段を上がり2階へ。「おはようございます。」笑顔で迎えて下さった女性会役員の方々。礼拝が始まるまではひとりぼっちの心細さで落ち着かなかったけれど礼拝が始まつたら、心がスッと落ち着いた。

小泉嗣先生の「新しい歌は」と題する説教を聞くうちに何となくこれから女性会で進むべき方向が見えてきたように思った。次いで各協力委員からのアピール。「すごい！！」皆さんそれぞれの分野で、取り組んでおられる。

昼食を取りながらまわりを見廻すと、懐かしいお顔がちらほら。そうだ、『会長会も女性の集い』だったのだ。『会長会』と思い込んで私一人で来たことを少し後悔した。

午後はグループに分かれてのディスカッション。もう、私の中の不安は消えていた。私のグループは4名。東教区と言っても地理的にはかなり広い範囲に教会が存在している。そして一つ一つの教会の様子も皆違う。教会全体の清掃から管理まで担っている教会。女性会がイベントの企画をし、外に向かって活動している教会。牧師先生が独身の為、牧師夫人の存在がわからない教会などなど。

自分の教会しか知らない私は大いに刺激を受けて会場を後にした。教区女性会役員の方々、ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願ひします。



「第1回会長会・女性の集い」から

前22期から引き継いだ教区女性会活動をこれからもより良い歩みへと、みなさまと共に祈り協力しあい・支えあいながら充実を図りたいとの思いからアンケートを実施しました。

◆アンケート 回答数 29

1. 教区役員会議事録		2. 会長会・女性の集い		3. 講演会	
配信は	重要なことのみ :17	時間の長さ	ちょうど良い :19	有益である :21	
	情報共有に毎回必要 : 9	長い : 4	あまり意味がない : 1	あまり意味がない : 2	
	あまり意味がない : 1	あまり意味がない : 1	無回答 : 3	無回答 : 6	
無回答 : 2		無回答 : 3			
ほっとニュース	重要なことのみ :22	開催頻度	ちょうど良い :27	4. 支援活動について	
	情報共有に毎回必要 : 4	多すぎる : 0	多すぎる : 0	献金先・	被災地・TNG・神学校・
	あまり意味がない : 1	少なすぎる : 0	少なすぎる : 0	活動の継続	恵まれない女性/子ども
無回答 : 2		無回答 : 2			達、社会的困難者へ

◆会長会・女性の集いの内容について

- ▶各個教会女性会についての明るい話題(困っていることのみではなく)や活発な活動状況について知りたい。
- ▶高齢者に関すること…元気でおられる証、家庭・社会の問題提起→改善点を探るなど。
- ▶協力委員の活動連携の顕著化(例:LWF/WICASなど)。各個教会女性会の理解・浸透を工夫してほしい)。
- ▶私たちが置かれている世界・社会状況を知り、学び、確認し、アクションを起こして行きたい。
- ▶各々のタラントが生かされる女性会活動や、社会的困難者への支援活動を目指したい。
- ▶仙台・甲信地区の状況を知らせてほしい。

◆講演会の内容について

- ▶子育てに関する話題(若い女性たちが抱える悩み・問題について)。
- ▶介護に関する話題(現場の声、行政のあり方、民間の取り組みなど)。
- ▶平和、社会、被災者(地)、広く女性に関する話題などを信仰者としてどう捉え、行動して行かれるか。
- ▶もっと宣教に力を注げる様に牧師の話や、「祈り・礼拝」などの基本的な話など。
- ▶平和を求める教会の使命・女性会の使命について。

とても刺激的、母教会の姉妹も出席を

松本教会*皿井 千穂子

4月11日に開かれた第一回会長会に甲信地区より初めて参加しました。甲信地区は鉄道網が発達していず移動はほとんどが車なので、慣れない電車を乗り継ぎ会場の田園調布教会に着いた時はほっとしました。

午前中は開会礼拝に引き続き、各協力委員からのアピールがありましたが、なかでも「ほしくずの会」の活動は今迄曖昧な知識しかなかった私は、関口佳子姉のアピールにいっしんに耳を傾けました。

午後は参加者67名が、9つのグループに別れ自由な話し合いの時を持ちました。甲信地区女性会でもグループ毎の、ディスカッションは度々やってきましたが、今回会長会で驚いたことは、書記、司会がすっと決まり、発表も又ポイントをつかんで皆さん堂々と発表され、さすが会長会と感心しました。平和、教育、自教会の現状、今後の会長会の持ち方など、様々な角度からの話し合いの報告がされました。私は甲信地区以外でこのような場に出席したのは初めてでしたので、とても刺激的で、母教

会の姉妹もこのような場に出席できたらと痛切に感じました。

本期東教区女性会の主題は「新しい歌を主に向かって歌おう」～キリストの愛に結ばれて協力し合い支え合う～です。昨今の各教会の現状は、決して安心できる状態ではありません。でも嘆いてばかりではなく、本日出席された頼もしい会長さんを中心にして、女性が先に立ち、主に向かい新しい歌を歌って行きたいものです。

今回の会長会冊子のイラストは、新会長の八木久美姉が描き、それに添えられた言葉を紹介しましょう。「どっしりとしたオリーブの木の枝には主の祝福が身を結び、梢を見上げると大空に舞う鳩が高らかに喜びながら主を賛美しています。そして大きく深く根を張る大地には雀たちが楽しそうに憩う姿が。平和と繁栄の象徴である鳩とオリーブの木、そして一羽の雀さえ主は支え愛し給う…私たち女性会の姿と祈りをこめて…」



◆グループ討議・話し合い～今まで、今、そしてこれからの女性会に望むこと

▶どの教会も高齢化が進む中、女性会への参加者も高齢者、固定メンバー化の傾向は否めない。かつて女性の社会的地位が容易に認められない(キリスト教界も同じく)状況下では、女性は共闘・協働しながら、互いを励ましあい、弱い者への良き隣人となろうとしてきた。戦後70年の時を経て私たちは、社会的・物質的に以前とは格段の向上を見ている。しかし、本当の豊かさとは何か?▶日本の内外、私たちを取り巻く環境・状況への理解、関心は深まったのか?▶キリスト者として今の私たちにできることは。息切れを覚えつつも、それを希求していきたい。▶持ち回りの役員推举などの「お約束を新たな視点で捉え直して」いきたい。▶都心や中央の論理で動くのではないフラットな各個教会女性会を。▶男女共同参画の時代、女性会の囲い込みの意義は?▶女性、男性、若者、性的少数者、社会的弱者、民族を超えた多様性の中で互いを理解し共存することの大切さを考えて行動したい。▶女性会の過去、現在の継承には「知ること、分かりやすく伝えること、学ぶこと」がポイント。▶権威主義的ではないバリアフリー化も必要。▶誰もがいつでも参加したい、楽しい、活き活きとした女性会を。▶Peace maker: 平和の器、道具として用いられたい。

◆これからのビジョン・基本方針

多くの祈りと仕え合いが繋げた“虹の架け橋(前東教区主題)”を渡る私たちは、“新しい歌を主に向かって歌おう”と未来へ歩みつつ、日々出会う様々な課題は、主に信頼を置きキリストの愛に結ばれていくことの確かな希望・喜びを実感として、乗り越えることができると確信しています。

第1回「会長会・女性の集い」での討議、アンケートに込められた思いや期待を基に、今何が求められているのか。そこには「伝えたいという思いの強さ、記憶していくことの責任」を感じます。主が創られた世界・社会の中で私たちは「今」と「これから」に新たな視点を加えながら再認識することにも留意しています。虹の架け橋と共に、各個教会・女性会始め青年・壮年会、各協力委員・団体のみなさまと共に、顔の見えるコミュニケーションとフラットな関係作り、種々のメディアの有益な活用も考慮しながら、とりわけ下記三点に注力してまいります。

▶TNG(The Next Generation)次世代宣教育成支援：プロジェクトへの理解を深め、活動を支えること。新規女性会員を始めとして内外へ広く伝達する手段を考え実践する。

▶神学校支援：神学校・神学生への理解・支援は次世代・社会へ広がる宣教伝道の第一歩として肝要。

▶一人ひとりの癒しから、繋がる：点と点が線へ、線の繋がりが面へと広がる意識と視点の共有。まず、今をみつめ「自分自身の癒し→隣人の癒し→社会の癒し」を大事にして広がる展開と、次世代育成支援や高齢者を含め世代・性別・民族の括りを外した社会的困難者の背負う課題への配慮を持ちながら、ダイレクトに繋がっていくことの実践。

第23回女性会連盟総・大会レポート

羽村教会*阿部 富美子

3年に一回の女性会連盟の総・大会、今回は代々木のオリンピック記念青少年総合センターで開かれました。

思ったよりも縁深い、都内とは思えない静かなところで、ふっと深呼吸が出来ました。前回の総・大会では主催者側でとても緊張していたことを思い出します。

なつかしい姉妹との邂逅、交流が楽しみでした。こういう場があるということは、とても幸いなことです。北海道から九州まで日本全国のキリストにつながる姉妹との交流、自然にこぼれる笑顔が誇らしく思えます。準備に奔走してくださった実行委員、役員の皆様に感謝致します。今回開会の召天者記念礼拝で、この3年間に召天されたお一人お一人の名前を呼びあげ、それぞれ所縁の方たちの冥福が祈られました。121名の姉妹の皆様です。講演は大塚野百合先生による「主イエスの深い愛を知る」-讃美歌の解説について-というタイトルで1時間半にわたる年齢を感じさせない、私たちを感動の渦に巻き込む少しも飽きさせないものでした。



私たちが日ごろ謳っている讃美歌、当たり前のように意味を深く考えることもなく、謳っていたことを反省する機会となりました。年齢を重ねても、その貪欲な姿勢、しっかりと大きな声で語り引き込まれていきます。なんて素晴らしい方でしょう。まだ本を出版されるとのこと、誇れる先輩です。今後のご活躍とご健康を祈りたいと思います。



愛燐会では知らない人同士、同じテーブルにつき交流の花が咲きました。また、東教区ならではの、ルーテル神学校の学生11名が参加し、未来のルーテルを担う若者が自己紹介して、とても頼もしく思いました。

3年に一度ですが、女性会連盟の明日を話し合い、また、なつかしい再会で笑顔の総・大会。いつまでも続いていけますよう祈りたいと思います。

シャロンの花を訪ねて Vol.1

ちょっと自慢したいこと

東京池袋教会*坂上 靖子

池袋教会は池袋駅西口から徒歩15分程の地にあり、2007年には宣教100周年を迎えた歴史ある教会です。女性会連盟には初期頃加盟していたようですが、その後長らく退会。「日本福音ルーテル教会宣教百年」を機に翌年1994年再加盟しました。毎月の例会や婦人聖書会の他に少し自慢したいことの一つは「訪問グループ」活動です。病床や施設に入所の方々へ2~3名がグループを組み「小礼拝」という形式で説教集から選んだお話や讃美歌を準備し、共に祈り合うときを持つ婦人信徒の訪問活動です。二つ目は毎年5月中旬、壮年会や板橋教会の方々にもお声をかけて教会の外へ出かける「野外親睦会」です。今年は「江戸東京博物館」を楽しみました。そして、壮年会が日頃の婦人の働きに感謝して年一回バーベキューをご馳走してくれる「婦人感謝デー」。最後に、10月のバザーで作るフィンランドの婦人宣教師直伝の料理は、とても好評ですので、皆さま是非お遊びにきて召しあがってみてください。お待ちしています!!



楽しいおしゃべり&展示物に魅入る姉妹



お江戸の橋の欄干で記念撮影

シャロンの花 を訪ねて Vol.1

新しい人、若い人、教会の宝物

板橋教会 * 池谷 節子

4月より新しく後藤直紀牧師ご夫妻が赴任されました。明るく気さくな先生と若い由起夫人に支えられ、教会は新しく入会する若い人が増えています。その中でも3月に洗礼を授かったばかりの青年のご奉仕は、大きな力となっています。教会の玄関は10段の石段を上らなければならないので車椅子の場合、人手が必要となります。朝早く教会へ来て車椅子の教会員を待つ姿や、新しく入会された方々への細やかな配慮は、教会の宝物のように輝いています。この青年を通して年齢や信仰の長短ではない、大切なことを改めて教えられています。「ぶどうの会」へも嬉しいことに新しい方が入会いたしました。これから女性会としての様々な活動に期待が膨らみます。池袋教会の女性会と私たちぶどうの会は毎年交流の時を持っています。今回は新任の青田先生、後藤先生と大江戸博物館を訪れて楽しい時間を過ごしました。*写真は飛鳥山にある紙の博物館を訪ねた時のものです。



笑顔がはじけるイースターの愛餐会



見学後の楽しいティータイム

一生任せてシャンシャンシャン

保谷教会 * 木村 富久子

1953年5月12日に東京老人ホームの礼拝から生まれた保谷教会。9年後の9月16日、第1回婦人会が開催され現在、女性会会員は25名、連盟会員15名、例会出席は10名ほど。

女性会の1年をざっとご紹介します。第1日曜日午後は平岡先生を囲み約15名が壮年会と合同聖研。3月開催の世界祈祷日礼拝に合わせ第1日曜日午後、世界祈祷日式文を用いて壮年会との共同礼拝。6月は市ヶ谷教会にて「中央沿線一日教会祭」に、主の恵みを「踊る教会」として壮年・青年会員を交え参加。今年は「花笠音頭：保谷教会バージョン」を「一生任せてシャンシャンシャン♪」と軽やかに歌い、踊りました。8月は東京老人ホームを訪問。「茶話会」のひと時を通じホームの方々と交流を深めています。毎月の女性会員へのお誕生日カード、10月のミニバザーの他に月2回の教会昼食準備、イースター、クリスマスなど、愛餐会のご馳走作りは女性会の欠かせない働きと言えます。保谷女性会は平均年齢アップや体調を崩す方が多くなりつつありますが、皆で支え合って奉仕しています。



♪～歌い手、踊り手共に賛美音頭で弾けます～♪

シャロンの花 を訪ねて Vol.1

参加を喜び、幸せと感じられる会 外に向けて何かを 八王子教会*渡理 聖以

全国レベル開拓伝道の一環で1970年に宣教が開始された八王子教会。9年後の2月4日、婦人会は壮年会・青年会と一緒に発足（教会宣教20周年記念誌『礎』掲載資料・姉妹たちの証）しました。婦人会連盟への加盟は、1984年9月の博多・全国大会から。その後、約10年前に連盟を1年間休会。新たに女性会の「お約束」をつくり再出発。そこには、世界との様々な繋がりと90年近くの歴史を持つ連盟の一女性会として活動を再び続ける決意と感謝が込められています。私たち女性会の特徴をご紹介しましょう。【年齢構成：未登録含】30代1名、40代0名、50代1名、60代2名、70代5名、80代4名、90代1名。【100円ランチ】今年度から100円のランチをスタート。月初めの愛餐会は女性会の担当ですが、毎礼拝後のランチは女性会は限りなく協力的かつ強力なパワーを集結させて、バラエティー豊かで美味しい昼食を提供させて頂いております。（中川俊介牧師のカレーも最高です！）【ビジョン】外へ向けて何かをしたい：ホームレスの人たちに関わる、一人暮らしの方への呼びかけ、月1回でも「お茶飲みできる空間」の創出など。【共通の思い】「参加していることを喜び、幸せを感じる会を継続してゆくこと」。



*当日欠席：上嶋姉・金井姉・高橋姉



*バザー風景：教会HP～

ヒマワリのような満面の笑顔がいっぱい

共に学び・助け合い・成長を

藤が丘教会*杉山 和代

女性会は毎月第3日曜、連盟会報の聖書研究を参考にしながら、佐藤牧師に聖書研究のご指導をお願いし聖書を学んでおります。毎月第2水曜日には、「お仕事会」を行います。「お仕事会」は、手芸品や一日神学校で皆様にご購入頂いている手作りカードを製作しています。

毎回ご高齢の礼拝オルガニストの方が、礼拝準備のため練習されるオルガンの音がBGM代わりになり、作業がすすみます。おいしい昼食は、メンバーの方が健康に配慮したメニューで、準備して下さいます。食事を楽しみに参加される方、おしゃべりを楽しみにされている方、様々な方が集い情報交換の場となっています。30数年前、藤が丘教会が創立された時、初期の多くの女性の皆様が女性会の基礎を築いてくださいました。共に学び、助け合い、成長していくという当初の精神が脈々と現在まで受け継がれています。



美味しく食し・笑顔で語らう情報交換



「お仕事会」手芸が光るパッチワーク & カード作り

❖ 気仙沼からの布絵はがき

東日本大震災後に気仙沼で被災した女性達の手仕事復活のきざしとして、古布を活用した“布絵はがき”的存在を教会英語礼拝の佐々木祐子姉のご主人の関係を通して知ることとなりました。急遽、教会や地域の知人から布地を寄せて頂き、宅急便で送り始めてから数年が経ちました。布絵はがきは100枚単位で1枚100円で、クリスマスカードは早めに9月10月には100枚350円単位でお願いして今日に至っています。

はがきもそうですが、クリスマスカードは東北の良さと言うのでしょうか、ほっこりと温かな和風のサンタさんなどが描かれていて手に取るとやさしい気持ちにさせられます。一枚一枚心を込めて作るものですから、急に大量には制作できません。そうやって完成したものが教会へ届けられると、日本語礼拝・英語礼拝であつという間に完売してしまいます。

3.11から2年目の11月だったと思います。この“手仕事布絵はがき”制作・連絡発送などの活動の中

東京教会*泉 洋子

心に居られる畠山容子姉と連絡を取り、私ども女性会四名（主人も同行）で完成した地域コミュニティセンターの見学も兼ねて気仙沼を訪問。思いに勝る大歓迎を畠山家で受けました。木の香も新しいセンターを案内して頂き、仮説住宅の方々にもお目にかかりお話を聞いて帰りました。今も思い続ける人の温もりと木の香です。

※現在は英語礼拝の佐々木姉も直接気仙沼と連絡を取り注文しています。

※畠山容子姉の姪御さんの畠山友美子姉は2014年からシャンティ国際ボランティア会 気仙沼事務所プロジェクト担当。2012年から支援団体「ルーテル教会救援」現地職員。



❖ 布ぞうり・吊し雛…祈りを込めて心を繋ぐ

被災地は今、あの時から53ヶ月目を迎えてます。今夏、昨年にも増して日本列島中が猛暑で充満している如くの或日、石巻の布ぞうり制作「なごみ会」の武山さんへご挨拶を兼ねて注文のお電話をしました。「ああ、ルーテルの女性会連盟さんですね！」と、お元気そうな良く通る声が響く電話先には、何人かの方々の声がしています。吊し雛「華の会」杉山さんとの暫しの会話でもお忙しそうな様

子がうかがえました。注文に応えるべく、日々精を出して一つひとつ色合いを考えて布ぞうりを編んでおられる姿、そして吊し雛（サンブル）のそれぞれに違う配置や形に、細やかで繊細な作り手のお気持ちと温もりを感じる様に、実際送られてきた品々は、本当に丁寧でとてもすてきな物でした。ずっと手に取りながら眺めてい

ても飽きることがありません。他のグループも含めて、被災地のみなさまの手から生み出される品々は、私たちと彼の地を繋ぐたいせつな祈りの対話とも言えるのではないでしょうか。また機会を作り、顔を合わせ心を繋げ続けていかれたらと願い、これからも、みなさまと共に祈りつつ。よろしくお願ひいたします。



次世代育成プロジェクト TNG : The Next Generation って何？



日本福音ルーテル教会宣教室 TNG (The Next Generation) 次世代宣教育成プロジェクトって何でしょう？良く分からぬのですが…。新来会者、最近の受洗者・転入会者を含めた教会員からよく聞かれる言葉です。次世代宣教育成の持つ語感は、とてつもなく壮大なプロジェクトの様でもあり、具体的には何を意味するのか分からなかったり、私には関係無いです～と引いてしまったり、ずっと頑張って來てるのよ！など様々な反応があるようです。そこで、次世代育成の実態は？気軽に参加できる？今さら聞けない TNG も含めて、私たちと一緒に少しづつ体験してみませんか。

☞ 幼児部門 こひつじレター

【幼児対象】：年3回レター発行(無料)。TNG グッズ販売：みことばカード、お誕生カードなど。みことばメッセージ、ルーテル幼稚園、みんなの教会、絵本の紹介、お花の祈り、楽しくあそぼう！の紹介などホームページを見てね。

<http://こひつじ.net/index.html>



子どもたちが、のびのび元気に過ごせますように…
大人たちが、楽しんで子育てができますように…



☞ こども部門 こどもキャンプ&CSテキスト

【小学5~6年生対象】：毎夏開催、昨年は広島『来んさい、ヒロシマ Peace ジャケン』、今年は東京「フレンドリーアイランド：トンガ王国へようこそ！」。第1回～7回 2003年までの国際キャンプ時代は宣教室と・婦人会連盟が祈りと協力に支えられて担当開催され、第8回こどもキャンプ時代からは宣教室 TNG 主催により発展途上国・地域を学ぶキャンプと、平和の尊さを学ぶキャンプを交互に行う。JELC-JELA 共同プログラム。

TNG-CS テキスト：聖書箇所とねらい・説教・分級欄が分かりやすい。

<http://www.asahi-net.or.jp/~gs6m-nkns/KidsCamp/>

<http://tng.jelcs.net/cstext/>



☞ Teens 部門 春の全国ティーンズキャンプ & オフィシャルブログ "Shout to the Lord!!"

【12歳～18歳対象】：今年で22回を数える毎年開催「春の全国ティーンズキャンプ」略して春キャン。他に各教区夏のティーンズキャンプ、Teens の集いなど盛りだくさんのイベントを開催。

◆ブログ：〈メルマガ / イベント / 春キャン / エッセイ / ルター / まじめな話シリーズ / 力なき者に力を / 神学校通信〉など充実。

◆フェイスブック：アクティヴな写真、コメントなどが豊富。

<http://tngteens.hamazo.tv> (オフィシャル ブログ)

<https://www.facebook.com/JelcTeens> (FaceBook)



☞ Youth 部門 全国青年 BIBLE CAMP & 青年修養会

【40歳(高校生不可)までの青年対象】：今回第3回目を迎える全国青年バイブルキャンプ。

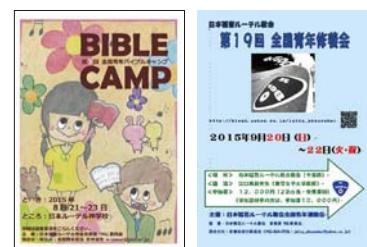
◆聖書を学びたいという気持ちを持つ40歳までの青年。

◆各教会のCS、教区や全国におけるキャンプスタッフ経験者、今後それを担おうとする人など。

◆全国青年修養会についてはフェイスブックを参照。

http://blogs.yahoo.co.jp/jelcy_shuyoukai

<https://www.facebook.com/zenseiren> (FaceBook)



感謝とご報告

3月21日(土)開催：第52回東教区定期総会 - 東京教会でのコーヒーショップ売上金 72,187円はルーテル学院大学・日本ルーテル神学校後援会へ、4月11日(土)開催：第1回「会長会・女性の集い」- 田園調布教会での礼拝献金 52,305円はTNG 支援へそれぞれ献金いたしました。松澤員子理事長、江藤直純学長、石井基夫校長、後援会事務局より感謝のお言葉をいただいております。みなさまの尊いご協力・ご理解に心から感謝しますと共に、今後ともよろしくお願ひいたします。

2015年夏は【フレンドリーアイランドトンガ王国へようこそ！】

「たくさんともだちをつくろう！たくさん笑っていっぱい話してぐっと学んでどかんと楽しもう！」



プログラム			
	8月6日(木)	8月7日(金)	8月8日(土)
7:00			おはよう！
9:00		朝のいのり 朝ごはん ●ハイクへゅっぱーつ！ ●トンガ王国体験ハイク	おはよう！
11:00			朝のいのり 朝ごはん グループ発表 お別れパーティー／卒業式 派遣（はけん）の礼拝 さよなら、またね！
14:30	集合！		
15:00	はじめの礼拝 わくわく！アイスマルティング グループタイム	●トンガ王国クッキング♪ おふろ	
18:00	おふろ 夜ごはん クイズdeトンガ♪	●トンガ王国ディナータイム 夜のいのり	
19:00	夜のいのり	●トンガ人のお話を聞こう！ 夜のいのり	
21:00	☆おやすみなさい☆	☆おやすみなさい☆	



体験リポート：こどもキャンプ8月7日のプログラムに参加して。

春の「ティーンズキャンプ」に続く今夏は、第17回「こどもキャンプ：8月6～8日」@ルーテル学院大学・神学校に体験参加の機会を得ました。全国の小学5、6年生のBoys&Girls34名とおとな(リーダー、キャンプ長、チャプレン、引率者、私たち：教区役員6名)総勢70名が緑豊かなキャンパスに集結。こどもたちが人・モノ・事に出会い、見、聞き、触れ、感じ、話すことに寄り添う。今回のテーマ：トンガ王国について東京在住トンガ人ファミリーも来キャン。私たちは中一日の限定参加ながら、とてもフレッシュで刺激的な一日でした。猛暑の中、事前に良く練り上げられたプログラムに、神学生を含めた献身的な奉仕者・ベテラン各担当委員・ホスト教会三鷹教会女性会のみなさま、お疲れさまでした。そして、お世話になりました。私たちも自由時間に野川公園内の国分寺崖線湧水に足を浸して涼を取ったり、モグラ出没の痕跡である土の小山を見たり、小旅行の感ありました。百聞は一見にしかず。こどもがゆったり体験し学び遊ぶことや協力し合い課題に対処することが難しい時代だからこそ、子どもとおとなにとって貴重な体験(遙か昔のC.S.の思い出が懐かしくもあり)とも言えるこどもキャンプ。あなたのお子さん、お孫さん、友人知人のお子さんもご一緒にいかがですか。次回はあなたがサポートスタッフさんかも知れませんね。私たちもこの有益なキャンプをもっと広めて応援しなくてはとの思いと、熱中症にならずに守られた感謝と共に帰路に就きました。(K.Y.)



@神学生寮食堂



@ブラウンホール2階教室



@野川公園

👉 神学校・神学生への理解から支援へ

[http://tngteens.hamazo.tv/ ← このサイトから神学校通信へ](http://tngteens.hamazo.tv/)



次号では『神学校と神学生への理解』をより深めるには何が必要か、また私たちは祈りと共に何が出来るのかを様々な視点から、考えて行きたいと思います。みなさまからのご意見もお寄せください。

👉『隣る人』映画上映乞うご期待！

10月17日(土)開催予定：第2回「東教区女性会長会＆女性の集い」@大森教会は『子どもたちは今、そして私たちは？』をテーマに、開会礼拝、映画上映、ディスカッション、親睦の時を予定しています。みなさまお誘い合わせの上、奮ってご参加ください。



❖ これからの予定・ご案内 ❖

◆一日神学校 <http://www.luther.ac.jp>



テーマ：『平和～いのちを守る』

日時：9月23日（水・祝）9:15～16:00

会場：ルーテル学院大学

受付：当日、受付にて講義整理券を発行（9:15 受付開始 定員になり次第、締切）

問合せ：TEL 0422-31-4611（代）

◆こどもしんがっこく 一日神学校と同時開催 9:45～15:30

テーマ：『シャローム～みんなで手をつなごう～』

TEENS のためのプログラム「平和～生きろ！～」

◆一日神学校ミニショップ・販売品制作のご理解・ご協力・ご参加をお願いいたします

：フェルトのオーナメント&タッセル（房飾り）

他の販売品ご希望やご不明の点についてはご連絡ください（e-kmy@tenabo.com 八木まで）

◆第二回 東教区女性会会長会＆女性の集い

テーマ：「子どもたちは今～そして私たちは？」

映画上映：『隣の人』・ディスカッション・分かちあい

日時：10月17日（土）10:30～14:30

会場：日本福音ルーテル大森教会 〒143-0023 東京都大田区山王2-18-3

礼拝メッセージ：竹田 孝一牧師

◆アジア教会婦人会議（ACWC）日本委員会 一日研修会

テーマ：「キリストに結ばれて」～主の働き人としてあゆむ～

日時：10月30日（金）10:30～15:00

会場：日本基督教団 富士見町教会

礼拝メッセージ：平岡 仁子牧師（日本福音ルーテル教会）

聖書研究：松見 享子師（日本バプテスト連盟）

発題：戸枝 季子氏（日本基督教団東北教区被災者支援センター エマオスタッフ）

参加費：1,000円

申込締切：9月13日（日）各教会担当者まで

◆東京老人ホーム訪問

日時：11月 - ご案内・詳細は別紙にてお知らせいたします



❖ 編集後記 ❖

女性会連盟総・大会が終わってすぐ、シャロンの花だよりの編集に取りかかりました。全てが初めてのことでの、わからないことばかり。多くの皆様のご協力により発行にこぎつけることができました。感謝です。（K.H）

女性会の歴史=夫夫の足跡。様々な過去の資料を読む機会が与えられました。その来し方行く末は？主に在りて皆さまの祈り・思い・出来事を共に刻んでいかれますよう祈りつつ。多謝。戦後70年を覚えて（K.Y）



東教区女性会会報 第87号（23期 第1号） 2015年8月15日

発行人：日本福音ルーテル教会女性会連盟 東教区女性会

発行者／編集：八木 久美 編集：保坂 和子